

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	感覚統合科学領域 眼科学教育研究分野 氏名 高橋 静
指導教授氏名	中澤 満
論文審査担当者	主 査 松原 篤 副 査 小林 恒 副 査 澤村 大輔
(論文題目) Profiles of Inflammatory Cytokines in the Vitreous Fluid from Patients with Rhegmatogenous Retinal Detachment and their Correlations with Clinical Features (裂孔 原性網膜剥離硝子体中の炎症性サイトカインと臨床像との関連)	
(論文審査の要旨) 裂孔原性網膜剥離 (RRD) は、視細胞外節が網膜色素上皮と解離することにより発生し、重度の視力障害を来す疾患である。この疾患には種々の炎症性サイトカインが関与することが明らかにされつつあり、病態を解明し効果的な治療を検討するためにも、炎症性サイトカインと網膜剥離の臨床像との関連を検討することは意義がある。 本研究は、弘前大学医学部附属病院で硝子体手術が施行された RRD28 例 28 眼、および対照疾患として黄斑円孔 (MH) や増殖性糖尿病性網膜症などの症例を対象とした。硝子体を手術開始時に採取し、Multiplex Beads Array 法を用いて、網羅的に炎症性サイトカインの定量的な解析を行った。また、臨床像として剥離範囲、剥離期間、硝子体の変化、黄斑剥離を指標として、硝子体中に検出された種々のサイトカインのうち、RRD と対照疾患との間で有意差が認められたサイトカインに関して、臨床像との関連について単相関解析と重回帰分析を行い、以下のような結果を得た。 1) RRD における IL-6, IL-8, MCP-1, MIP-1 β , IP-10 は MH に比べ有意な上昇がみられた。 2) 臨床像との比較では、MIP-1 β は剥離範囲と剥離期間の両者に有意な相関が得られ、IL-8 は剥離範囲にのみ有意な相関が得られた。 3) サイトカインの相互関係では IL-8 は MCP-1, MIP-1 β , IP-10 と有意な相関が得られた。 これらの結果から、申請者は RRD においては、炎症性サイトカイン上昇には多様な反応様式があり、特に IL-8 がサイトカインネットワークで重要な働きをしていることを明らかにした。 本研究は、RRD の病態に関してサイトカインネットワークの関与を解明し、今後は病態に応じた適切な治療を立案することに道を開く可能性を明らかにしたもので、この分野に資するところがあり学位授与に値する。	
公表雑誌等名	Hindawi Publishing Corporation BioMed Research International Article ID 4256183